健康アドバイス

「新型コロナウイルスワクチンについて」

岡山県南部健康づくりセンター　　医　師　　佐々木　佐起子

新型コロナウイルスに対するワクチン接種が始まっています。今回はワクチンについて改めてお話ししたいと思います。

（1）　ワクチンの目的

新型コロナウイルスワクチンは、発症を予防し、重症者や死亡者をできる限り減らすことを目的としています。予防接種は受けた人だけでなく、その周囲の人々にも利益があるほか、多くの人が受けることによって社会全体を守ることにつながります。

（2）　有効性と投与方法

現在日本で接種が予定されているどのワクチンも、70-95％の発症を防ぐ効果が認められています。（ただし続々と発生する変異株ウイルスへの発症予防効果ついては、それぞれ今後の報告を待つ必要があります。）

接種回数は２回、筋肉内注射です。接種間隔はファイザー社製で通常３週間、モデルナ社製で４週間。十分な免疫ができるのは、２回目の接種を受けてから７日程度経過して以降といわれています。現時点では感染予防効果は明らかになっておらず、ワクチン接種にかかわらず、適切な感染防止策を行う必要があります。

（3）副反応

予防接種により免疫が作られる過程で、発熱や接種した部分の腫れなど、副反応が一定数みられます。しかし、どの程度の頻度で発生、どのくらいの影響を及ぼすのなのかを正しく知り、接種する利益とリスクのバランスを考慮する必要があります。

新型コロナウイルスワクチン接種後に報告される頻度の高いものとして、
接種部の痛み（＞80％）、疲労（＞60％）、頭痛（＞40％）、筋肉痛（＞15％）、37.5°C以上の発熱（＞30％）などがありますが、おおむね２日以内に回復しています。

アナフィラキシー（重大な副反応）の発生頻度は５件/100 万回接種程度とされ、一般的なワクチンの 1.3 件/100 万回接種程度に比較すると多い可能性がありますが、抗生剤など他の薬剤に比べて極端に多い訳ではありません。アナフィラキシーには、接種後の喉の違和感や吐き気などから血圧低下を伴い生命の危機に至るものまで様々な段階のものがあります。いずれも接種直後に起きることが多いため、接種後 15-30 分程度は病院で経過をみることで対応できます。

(4) ワクチンを受けるのに注意が必要な方など

以下に該当する方は、ワクチンを受けることができない場合や、注意が必要な場合があります。かかりつけ医等にワクチンを受けてよいかどうか相談ください。

受けることができない方	**○明らかな発熱がある方や、重い急性疾患にかかっている方** **○ワクチンの成分(※1)に対し、重度の過敏症を起こしたことがある方**
注意が必要な方	**○　現在、何らかの病気で治療中の方** ・心臓病、腎臓病、肝臓病、血液疾患、免疫不全で治療中の方 ・血が止まりにくい病気の方や、血をサラサラにする薬(※ 2)を飲んでいる方 **○　以下のような症状が出たことが方** ・薬や食品に対する重いアレルギー症状　　・けいれん(ひきつけ)

(※1)　ポリエチレングリコールなどが成分として含まれます。ポリエチレングリコールは、大腸内視鏡検査時に下剤として使用する医薬品を始め、様々な医薬品に添加剤として含まれており、化粧品にも含まれていることがあります。その他の成分や、詳細については、厚生労働省ホームページをご覧ください。

(※2)　このワクチンは、筋肉内に注射をします。そのため、抗凝固薬(ワーファリン®、プラザキサ®、イグザレルト®　エリキュース®　リクシアナ®　)　を内服中の方は、接種後の出血に注意が必要です。

(厚生労働省新型コロナウイルスワクチン接種のお知らせより抜粋)

最後に

ワクチンを受ける際には、感染症予防効果と副反応のリスクを正しく理解した上で、本人が接種を判断する必要があります。受ける方の同意なく接種が行われることはありません。周囲の方に接種を強制したり、接種を受けていない人に対して差別的な対応をすることがあったりしてはならないのです。